

介護ベッド用離床センサー「SHOCARES™」の販売を開始

－ ベッドの下に簡単設置、離床予知で転倒・転落を防止 －

昭和電工株式会社（社長：市川 秀夫）は、介護ベッド用離床センサー「SHOCARES™」（ショウケアス）を開発し、今月より販売を開始しました。本製品は、10月12-14日に東京ビックサイトで開催される「H.C.R.2016（国際福祉機器展）」にて紹介します。

同離床センサーは、軽くて剛性が高いアルミニウムの特性を生かした製品で、加重によるセンサーの変形を電気信号に変換し重量を測定します。臥床（寝た状態）・離床に加え、人の動きによるわずかな重量変化を基に、当社独自のアルゴリズムにより、動き出しや起き上がり、端座位（腰掛け）といった利用者の動作を検知します。利用者の動作から離床を予知し、看護・介護者に通知し、転倒・転落のリスクを軽減します。また、体重測定のほか、睡眠状態の判定や、蓄積データから対象者の生活パターンも解析できます。

当社の離床センサーは、すでにベッド内蔵型センサーとして採用実績がありますが、今回の「SHOCARES™」は、ベッドの脚部4カ所の下に敷く床置きタイプであり、既存のベッドに簡単に設置することができます。また、利用者の状況をリアルタイムにパソコンで閲覧でき、離床を予知した際には、スマートフォンでメール通知を受け取ることも可能となりました*。ベッドを買い替える必要がないことから比較的導入しやすく、手元で利用者の状況を把握することができるため、巡回などの看護・介護者の負担を軽減します。

当社は「生活環境」などの市場領域に対し、社会に貢献できる新規事業の創出を進めており、その一つとして介護福祉業界を対象とした離床センサーを手掛けています。「SHOCARES™」では、利用者に合わせたリスク管理とケアの質を向上することを目的に、測定できる生体情報の充実を図っており、今回、オプションとして、脈拍数・呼吸数を測定できる非接触センサーも販売致します**。当社は今後も、業界のご要望に応えるべくさらなる改良を進め、介護福祉業界に貢献してまいります。

以上

*パソコン・スマートフォンへの情報送信には、無線LANの環境が必要です。

**本製品は、医療行為を意図したものではありません。



基本セット

